

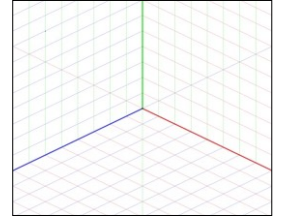
「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～『三次元の変化』の時代・・・変える勇気と変えない勇気～

「結果を変えなければ、過程を変える。」

これは、この通心（信）でよく君たちに発信している言葉です。

この通心（信）でよく紹介している「致知」という月刊誌の「巻頭の言葉」でアサヒビール社友（＝その会社の社員ではないが、関係が深いために社員と同じような待遇の人）の福地茂雄さんが「変える勇気」と「変えない勇気」について執筆されています。



「今は三次元の変化の時代。」私はそう考えています。

- 一、あらゆる分野で例外なしに変化が起きている。
- 二、それぞれの変化の奥行きがきわめて深い。
- 三、変化のスピードが速い。

こうした三次元の変化の時代には、これまでの常識や経験則を改めて検証しなければなりません。

今はビジネスの世界に留まらず、生活のすべての分野にわたってグローバル化が進んでいます。それに伴い「どうぞよろしく」「そこを何とか」といった、これまで常識的に用いてきた文言も通用しづらくなりつつあります。

「私なんてとてもとても・・・」という日本と特有の謙譲の美德だけは何とか残しておきたい。というのは私の願いです。

三次元の変化の時代には、前回と同じような次回はありません。「前回通り」というサイクル時代の経験則に頼らず、想定外を想定内に取り込む工夫が求められます。

多く人は、今までの行動や考え方を変えることに躊躇しがちです。私たちを取り巻く環境が三次元の変化をしている以上、勇気を持って変えなければなりません。

そうした中でも、変えてはいけないものがあります。それは信念、企業理念です。

「吾が道は一以て之を貫く」・・・言わずと知れた「論語」の言葉です。

自分の信じる道を曲げないということは、「言うは易く行うは難し」です。

事を為すに際しては、安易な道を選ぶのではなく、「初心」に従って進むことが、結局は「初心」を貫徹する近道だと思います。

事象面においては「変える勇気」を・・・そして理念においては「変えない勇気」を。

私たちはこの心構えを持って、三次元の変化の時代の道を切り拓いていきたいものです

『致知』3月号「巻頭のことば」より アサヒビール社友 福地 茂雄

福地さんは、三次元の変化に対応するために「より早く、もっと速く」を心掛けておられるそうです。「より早く」は・・・**決断**です。三次元の変化の時代のためには早く決断することが求められます。「もっと速く」は・・・**仕事のスピード**です。後回しにしない。三次元の変化は待ってくれないのです。とおっしゃっています。

堺屋太一さんの「世界を創った男 チンギズハン」の中に・・・

「入りやすい入り口には出口はない・・・ 入り難くとも出易い道筋を選ぶ」という言葉があります。

あなたの「変える勇気」を持って変えないといけないことって何ですか？
あなたの「変えない勇気」を持って、変えてはいけないことって何ですか？
あなたは・・・入り易い入り口ばかりを探していませんか？
そして・・・あなたの・・・「初心」を忘れていませんか？
あなたの「初心」は何ですか？・・・あなたの「初心」は何でしたか？

